

遺物整理事業

県道富山魚津線関連事業

水橋荒町・辻ヶ堂遺跡（富山市）

令和5年度の発掘調査終了後に、令和4年度の調査成果とあわせて遺物整理作業を実施し、発掘調査報告書を刊行しました。

縄文時代から江戸時代までの幅広い時代のものが見つかりましたが、特に弥生土器では爪状の圧痕を施した壺がありました。何らかのモチーフを描こうとした絵画土器であり、当時の人々が何か願いを込めて作った特別な土器であったと考えられます。



爪状圧痕のある弥生土器

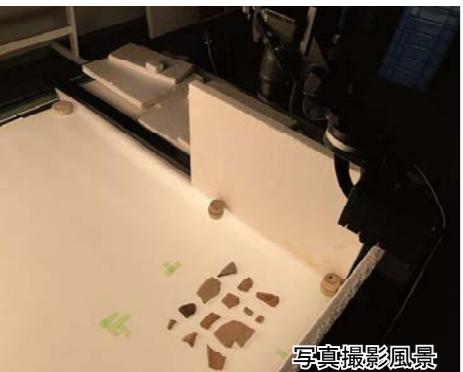


とやま
令和五年度
発掘調査速報
だより

県営農地整備関連事業

浜黒崎町畠遺跡・浜黒崎悪地遺跡（富山市）

発掘調査が終わるとすぐにその成果をまとめた報告書作成にむけて整理作業を行いました。調査で記録した図面や写真の整理、出土遺物の実測や写真撮影など多くの作業があります。これらの作業を積み重ねていくことで、より遺跡の実態の解明に迫っていきます。報告書刊行までには難しいことが多いですが、思わぬ発見もありやりがいがあります。



土器・陶磁器整理風景

下邑遺跡・小長沢Ⅱ遺跡・小長沢鎌蓋遺跡（富山市）

令和4年度に調査した下邑遺跡と小長沢Ⅱ遺跡、令和5年度に調査した小長沢鎌蓋遺跡は旧婦中町の小長沢地区にある遺跡です。報告書はこの3遺跡の調査成果をまとめて刊行しました。遺跡は近隣にありますが、それぞれに特徴があります。それを踏まえて整理作業を行い、小長沢地区の歴史環境復元を行いました。



とやま発掘だより 一令和5年度 発掘調査速報一

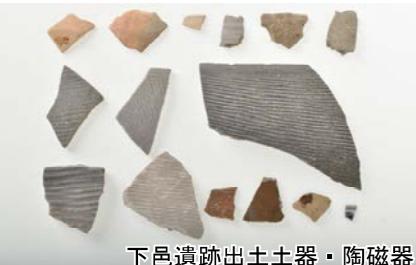
発行日 / 令和6年2月20日

編集・発行 / 公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査課

〒930-0887 富山市五福 4384-1

TEL (076) 442-4229 FAX (076) 433-3797

<http://toyama-mabunji.com/>



下邑遺跡出土土器・陶磁器

小長沢Ⅱ遺跡出土木製品

公益財団法人 富山県文化振興財団

埋蔵文化財調査課

発掘調査事業

県道富山魚津線関連事業

水橋荒町・辻ヶ堂遺跡（富山市）

遺跡は富山市北部の常願寺川右岸の河口付近に位置しています。調査区は富山湾海浜部に形成された砂丘上に立地し、中世の掘立柱建物や弥生時代・中世・近世の土坑・溝が見つかりました。

掘立柱建物は2棟あり、柱穴には柱の痕も残っていました。詳細な時期を示す出土遺物はありませんでしたが、規模や構造から中世後半と推測されます。周辺で行われた別の調査では中世の井戸が見つかっていることから、集落が存在した可能性があります。

遺構は見つかっていませんが、縄文時代中期後葉～後期前葉の土器も多く出土しています。特に縄文時代中期後葉（串田新式）の土器は、この付近の海岸部でこれまで考えられていたよりも古い時期に人々が活動を開始していたことを示すものです。魚を捕るために網に付ける石の重り（石錘）も出土していますので、海辺での狩猟採取活動のために訪れていたのかもしれません。



掘立柱建物

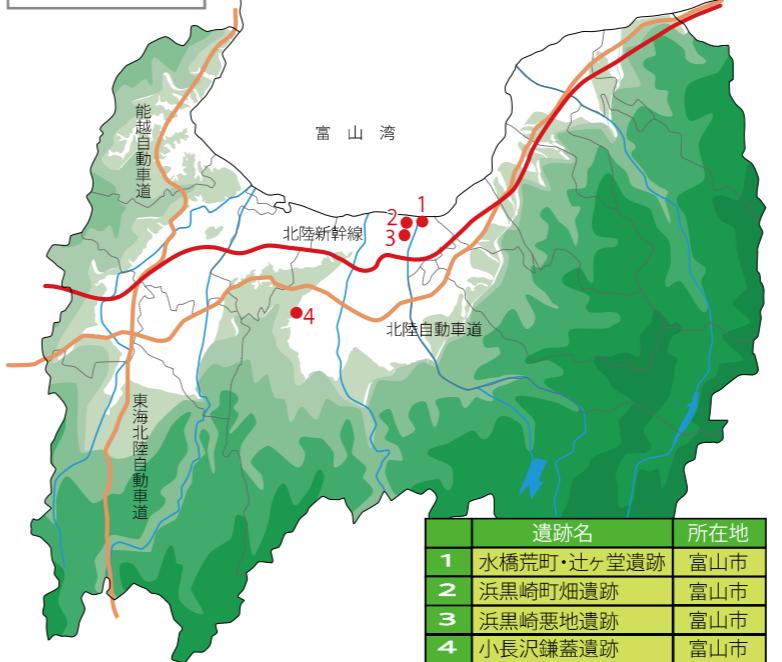


柱穴に残る柱痕



全景

遺跡位置図



| 遺跡名 | 所在地 |
|--------------|-----|
| 1 水橋荒町・辻ヶ堂遺跡 | 富山市 |
| 2 浜黒崎町畠遺跡 | 富山市 |
| 3 浜黒崎悪地遺跡 | 富山市 |
| 4 小長沢鎌蓋遺跡 | 富山市 |



遠景



測量風景



堆積状況

県営農地整備関連事業

こながさわかまふた

小長沢鎌蓋遺跡（富山市）

遺跡は富山市中央西部で、呉羽丘陵よりつく羽根丘陵と井川に合流する山田川とにはさまれた平野部にあります。

調査区は遺跡範囲でも端にあたり、かつての川跡の一部を確認しました。遺跡名にある“小長沢”の地名の由来は長沢川（山田川）の河原からきていると言われています。今回の調査でその由来が正しかった可能性が高くなってきた気がします。

川跡からは土器や陶磁器などはみつかりませんでしたが、堆積した土壤の科学分析を行った結果、奈良～平安時代はアシやマコモなどの生息する湿地と丘陵地にスギ林がある環境が想定されます。現在のような水田地帯となったのは鎌倉時代以降とみられます。調査区は小さいですが、小長沢地域の環境変遷が明らかになる調査となりました。

浜黒崎町畠遺跡・浜黒崎悪地遺跡（富山市）

遺跡は富山市中央北部で西を神通川、東を常願寺川にはさまれた平野部にあり、富山湾までは近いところで500mの距離があります。浜黒崎町畠遺跡では、2本並んでいる断面逆台形の溝と掘立柱建物、井戸などがみつかりました。調査区は小さく、全容はわかりませんが、平安時代から鎌倉時代にかけて大きな集落があったようです。また、噴砂（能登半島地震で富山県内各地でみられたような液状化現象の痕跡）も発見されました。この噴砂は地層から幕末の大地震である安政飛越地震によるものと考えられます。地震の記憶を示すものとして重要な資料です。

浜黒崎悪地遺跡では、西側で奈良時代から室町時代にかけての溝や柱穴などがみつかりました。富山市教育委員会が遺跡の南側を調査した成果とあわせて考えると、集落の北端にあたるものとみられます。東側ではかつての川跡の一部を確認しました。これは何度も流れを変えていた常願寺川の支流とみられます。堆積土の科学分析からは、周囲に水田やソバ畑などの耕作地が広がっていたことが想定されました。



浜黒崎町畠遺跡遠景



浜黒崎町畠遺跡噴砂



浜黒崎町畠遺跡説明会



浜黒崎悪地遺跡作業風景